

図書館だより

第134号
2026年
7月



目次

- 02-03 新任教員おすすめの本
- 04-06 特集(ホラー特集/宇宙特集)
- 07 図書館POPコンクール
- 08 ひととき 川村淳浩校長先生

表紙/2年 物質工学科 東樹里 1年 物質工学科 中村桜
2年 経営情報学科 岩永悠里

新任教員 おすすめの本

このページでは、新たに宇部高専に来られた先生方のおすすめの本について紹介しています。本の題名だけを見ると少し近寄り難いかもしれませんが、どの本もとても読みやすいです。来られた先生とすでに話したことがある方も、これからの方も先生と話すきっかけにぜひ読んでみてください！

日常が学びに変わる！経営学の本 中川功一

経営学と聞くと難しそうなイメージがありますが、本書は身近な事例を通して、誰でも楽しく学べる入門書です。企業のCSRやCSV、スマホアプリの「フリーミアム」モデルなど、普段の生活で目にするテーマを題材に、経営学の考え方をわかりやすく解説しています。

専門知識がなくても理解できるよう、豊富な具体例と平易な言葉で構成されているため、学生はもちろん、ビジネスパーソンや経営学を初めて学ぶ方にも最適です。日常の出来事を新しい視点で捉えられるようになり、仕事や生活に役立つヒントが得られる一冊です。

なぜ企業はそのような戦略をとるのか？という疑問を楽しみながら学びたい方におすすめです。

ファン先生 オススメ

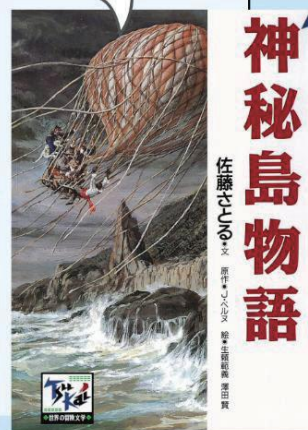


痛快 世界の冒険文学 神秘島物語 ジュール・ヴェルヌ

この本は主人公がサバイバルをする物語で、なんにもない島から何か使える道具を作ろうとするリアリティあふれる物語です。主人公は漂流してしまい島にたどり着くのですが、島の地形をかえるために、自然界のものから爆薬を作り、岩を壊して自分たちの水飲み場の川を作るシーンが印象深い物語となっています。高専生へのおすすめのポイントは、どこからともなく道具が現れるのではなく、道具を作る手順が細かく書かれているため、「科学的にそういう話もありえるな」と思える部分があって面白いし、意外と将来の研究のヒントになるような表現や内容が詰め込まれているところです。

この本に限らず皆さんは自分が読みたい本も読んでください。読む際には、紙の本にも手を伸ばしてみてくださいね。

弘中秀至先生 オススメ



スッキリわかるPython入門 第2版 国本大悟 須藤秋良

「Python」といえばプログラム言語ですが、どうしても初めはプログラミング環境の用意や細かいトラブルなどにとつつきづらい部分が多いかもしれません。しかし、この本ならば他の入門書とは異なり、視覚的にわかるようにイラストが多く、キャラクター同士の対話方式で内容や事項が実に素直に入ってきます。

他にも、項目ごとに細かくページが分割されており、もしもピンポイントな疑問が生まれたり、忘れてしまっていたりしても読み返しやすく、一步一步着実に理解を深められる内容になっています。皆さんもぜひ興味があれば、この本で基礎やプログラミングの楽しさを学び、場所を問わず今後の生活に活かしてみてください。

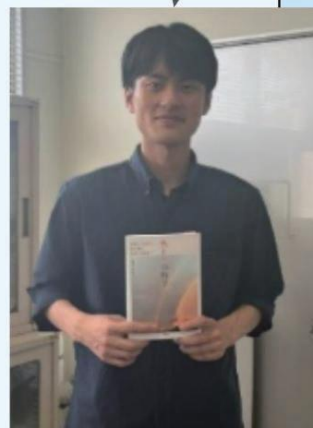
渡邊初男先生 オススメ



物理と化学で読み解く色彩の起源—色と光の科学— 小島憲道/末元徹

橋本凌河先生
オススメ

有機化学を専門とし、光を使って化学反応について研究しています。光を使って化学反応と聞くと、難しいと思うかもしれませんが、ですが、本書は、身の回りで起きている色と光の化学反応について、専門的に構造式を用いて説明されています。また、興味を惹くようなコラムがあったり、幼いころに疑問に思っていたことについての原理などが書かれていたりする内容になっています。例えば、「眼はどうやって色を見ているのか?」や、「水はなぜ青く見えるのか?」、「落葉樹の葉が紅葉するしくみ」などのコラムと専門的な言葉などを用いて説明されているものが多くあります。そのため、学びの導入として面白く、おすすめです。このような身の回りで起きている化学反応についての本が好きなので、他にも、香料や匂いについての本(色とにおいの科学)もおすすめです。その本もコーヒーやバニラなどはこのような化合物からできていて、その成分は何かなどが構造式を用いて説明されています。日常で起こっている化学反応について、疑問が浮かんだり、原理が知りたいというときやそれらについて学びたいと思ったりしたときに、是非手に取ってほしい一冊です。

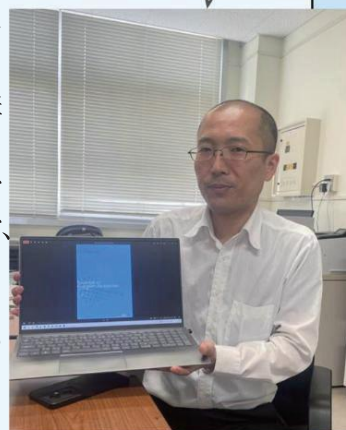


コンピュータアーキテクチャのエッセンス ダグラス E. カマー

加藤博久先生
オススメ

この本はコンピュータの構造で、アーキテクチャーと書いてある通り、ハードウェアのこと、コンピュータがどんなふうに行っているのか、構造電子回路などを踏まえて書かれた本です。

私がこの本を読んだのが、大学二年生の時に読んだもので、ほかの本に比べて構成がすごく良くて、簡単なことも書いてあるのですが、表面的なことだけでなく書いてある内容の深さもすごくよく、わかるところとわからないところまでの導入がすごくいい本で、勉強になります。かかっている方もとても有名な方で、コンピュータの第一人者というところもいい点だと思います。簡単なのところもあるけれど奥深いところもあり、初心者の人に向けた一般的な参考書のようなところもありつつ、それに加えて筆者の方の洞察が深いところまで書かれてあるので、知識を深めたい欲求をくすぐってくるような内容になっています。プログラミングの話ではなくPCの構造などの話になるのですが、あまり専門的すぎないのでぜひ、コンピュータに興味がある方におすすめしたい本です。



宇宙創成 サイモン・シン

瀧澤奎太先生
オススメ

宇宙論の歴史を描いた一冊で、宇宙や物理学がどのように理解されてきたのか、人々がどんな考え方をし、どのような論争を繰り広げながら現在の宇宙観へとたどり着いたのかが描かれています。

この本には、数式はほとんど登場せず、専門知識がなくても読み進められるため、気軽に宇宙の世界へ触れることができます。私自身、中学生の頃に宇宙へ興味を持った際に初めて手に取った宇宙関連の本がこの一冊でした。なので、宇宙に興味はあるけれど、「難しそう」「自分には理解できないかもしれない」と感じて、なかなか一歩を踏み出せない人におすすめです。また、著者の独特な語り口調がとても面白く、最後まで飽きずに読むことができます。高専ではそれぞれの専門分野を学びますが、自分の専門意外にも少しでも面白そうだと感じた分野があれば、ぜひ積極的に手を伸ばしてみたいと思います。



ホラー特集

ホラー小説は、背筋が凍るような恐怖を味わいながら暑い夏を涼しく感じられる読書の楽しみのひとつです。

そこで、今回は図書館学生ボランティアが選んだホラーにまつわる作品を5つ紹介します。

気になる1冊をぜひ手に取ってみてください。

1年 物質工学科
中田 潤之介

夜廻/保坂歩、日本一ソフトウェア



ゆっくりとでも確実に忘れ去られていく、寂しさのはびこる土地。ノスタルジーすら消え失せていき、人々は次々といなくなっていく、神社すら商店街ごと取り壊される。そんな町の「夜」が本作の裏舞台です。この町の「夜」は誰も出歩かない。みんなうすうす感づいているのです。そして、母親を亡くし、父親は仕事で普段家にいない、そばにいるのは犬のポロとお姉ちゃんだけの小学生の女の子が本作の主人公です。とある出来事により、「夜」に繰り出してしまうことになった姉妹。しかもふたりは「よまわりさん」によって離れ離れになってしまいます。「夜」に出歩く子供たちのもとに現れその大きな袋で、子供たちをどこかにさらってしまう。何を目的としているのか、何を考えているのか、その真意は誰にもわかりません。姉妹が互いを思いながら、夜の街を闊歩する何かを避け、家に帰ることを目指す。そんな物語です。あんしんしていいよ。

2年 物質工学科
桑山 滉

リング/鈴木光司

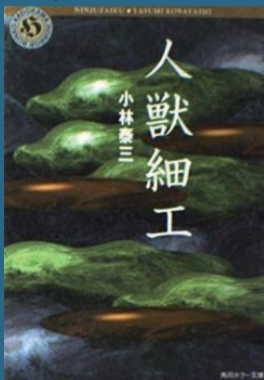


ある日、4人の若者が同じ日に不可解な死を遂げるという奇妙な事件が起こる。週刊誌記者の浅川和行はその事件の真相を追う中で、一軒の別荘にたどり着く。そこには奇妙な内容が映ったビデオテープがあった。調査を進めるために浅川自身もそのビデオを見てしまうが、不思議な映像の断片と「この映像を見た者は、一週間後に死ぬ」という文を最後に映し、ビデオは途切れてしまう。死のタイムリミットが迫る中、呪いの正体を探るうち、恐るべき存在「貞子」にたどり着くが…。

「リング」は鈴木光司のホラー小説で、1998年に映画化され大きな話題となりました。「貞子」という名前だけでも知っている人は多いのではないのでしょうか。物語はただのホラーではなく、サスペンスやオカルトなど、様々なジャンルの要素で構成されています。じわじわとくる恐怖と緊張感が魅力の一冊です。

2年 物質工学科
兼島 綾那

人獣細工/小林泰三



主人公の夕霞は、「生まれつき重い病気だから」と、父によって全身豚の臓器を移植されてきたパッチワーク・ガールだ。肩にある魚の頭の形の痣だけが生まれた時のまま、唯一夕霞である証だ。自分自身を「ひとぶた」と呪い続け、それでも必死に生きてきた。しかし、父の死後に見つけ出した記録から明かされる真相は、あまりにも残酷だった。それは、夕霞が夕霞である証だった痣によって、皮肉にも裏付けられてしまう。父の本当の目的は何だったのだろうか。

この物語の怖さは、当たり前前に信じていたものすらも覆る絶望感にある。単なるホラー小説ではなく、自分という存在の不確かさを考えさせられる。

5年 制御情報工学科
森 悠七

火のないところに煙は/芦沢央



この本は、作家のもとに寄せられた会談をもとに展開していく物語です。どの話も、「本当にあったのでは？」と思わせるような怖さを持っており、リアリティあふれる描写が特徴です。ある女性が語る不思議な体験や、事故物件にまつわる噂など、それぞれの話には思わず背筋が凍るような出来事が描かれています。各話は一見独立していますが、読み進めるうちに点と点がつながり、大きな謎へと収束していく構成も魅力の一つです。怪談の恐ろしさだけでなく、ミステリーとしての面白さも味わえるため、ホラーが好きな人はもちろん、謎解きが好きな人にもおすすめの一冊です。読み終えた後、何気ない日常の出来事さえ不気味に感じられる、そんな作品です。

2年 物質工学科
江原 咲輝

親指さがし/山田悠介



『親指さがし』は、漫画化や映画化もされた人気のホラー小説です。物語は主人公の武と同級生の男女4人が小学生の時にやった都市伝説の親指さがしという遊びから始まります。ある日、武達5人は親指さがしをやったところ、突然5人の中の1人である由美が姿を消しました。当時、残された4人はその現実を受け止められず、その場を去り、忘れようとしていました。しかし、7年後に再集結し、「もう一度だけ、親指さがしをして由美を連れ戻そう」と再びゲームをやりました。しかし、それからメンバーが次々と不可解な死を遂げていくことになるのです。それから、武は由美が消えた真相、メンバーが次々と死んでいく原因を探していきます。たどり着いた答えはとても恐ろしいものでした。この作品は会話文が多く、テンポが良いため読みやすいです。加えて文字だけでも怖さを感じることができます。ぜひこの夏に読み、ひんやりとした恐怖を体験してみてください。



宇宙特集



5年 制御情報工学科
八鍬青羽

夜、寝る前に読みたい宇宙の話/野田 祥代

宇宙や惑星、人類の歴史などをやさしく解説した一冊です。語りかけるような親しみやすい文章で、面白おかしく書かれているため、宇宙を身近に感じながらその魅力を知ることができます。宇宙に興味はあるけれど、科学の知識に自信がない人でも楽しみながら読み進められます。私たちは日々、小さなことで悩んだり、誰かとすれ違ったり、思い通りにならず落ち込んだりします。しかしこの本は、そんな私たちに「宇宙からの視点」を与え、当たり前前の日常や自分の考え方を見つめ直すきっかけを与えてくれます。広大な宇宙の中で考えれば、自分の人生はほんの一瞬の出来事かもしれません。それでも、その一瞬だからこそ尊く、かけがえのないものだと思わせてくれます。自分の存在のはかなさと大切さの両方を感じながら、これから前を向いて歩いていこうと思わせてくれる、そんな素敵な一冊です。



5年 制御情報工学科
山本真咲

火星の人/アンディ・ウィアー



有人火星探査プロジェクト「アレスミッション」。その3回目のミッションは、火星の嵐の影響により着陸後数日で中止に追い込まれる。その撤退作業中、嵐で吹き飛んだアンテナが刺さり、ミッションメンバーのひとり、マーク・ワトニーが吹き飛ばされる事態に。救出もできず、残りのメンバーは悲しみの中、火星から脱出。死んだものと思われたワトニーだが…なんと生きていた！地球との通信が絶たれ、食料も限られる状況の中、マークの植物学者とメカニカルエンジニアとしての知識を総動員したサバイバルが始まる！

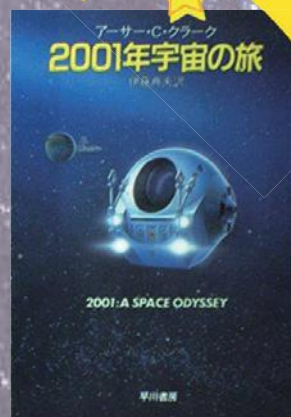
この作品は2009年から作家アンディ・ウィアーのウェブサイトで連載されていた作品で2011年に一冊の本になりました。主人公マークは宇宙飛行士ということもあり冷静で優秀ですが、それ以上にポジティブかつユーモアあふれる人物です。火星に1人という絶望的な状況でもコツコツと火星環境を整え地球への帰還を進めていく姿勢に、読んでいるこちらが不思議と元気になるそんな作品です。

2001年宇宙の旅/アーサー・C・クラーク

人類の進化を導く謎の存在「モノリス」をめぐり、宇宙船ディスカバリー号は木星へと向かいます。その任務を遂行するのは四人の乗組員と高度に進歩したHAL9000型コンピューター、＜ハル＞。太陽系最大の惑星への人類による最初の往復飛行は、やがて小さな違和感から不穏な空気に飲まれていく…。

閉ざされた宇宙船という密室空間の中で、仲間への信頼が少しずつ揺らいでいく過程はとても緊迫感にあふれていて、思わず引き込まれます。とくにハルの振る舞いには、機械であるはずなのにどこか感情のようなものが感じられ、読みながら深く考えさせられます。AIに大きく頼る現代だからこそ、決して他人事とは思えないテーマです。さらに物語の後半では、宇宙の壮大さや生命の神秘にも触れることができ、想像力を大きく広げてくれます。ドキドキするサスペンスと宇宙へのロマンの両方を楽しめる、読みごたえのあるSF名作です。

5年 制御情報工学科
中村羽菜



図書館

POPコンクール開催!!

今年度は、これまでの図書館ポスターコンクールに代わって図書館POPコンクールを開催します！
見た人の心をグッとつかむひとことであなたの推し本を紹介してみませんか？
たくさんの応募をお待ちしています！

応募資格

本科生、専攻科生

募集テーマ

おすすめの本(ジャンルは問いません)

応募部門

〈手書き部門〉

自分で手書きした作品

生成AIの使用は認めません。

〈一般部門〉

デジタル作品や写真をメインにした作品の応募も可

生成AI（画像生成AI・文章生成AIなど）の使用も可能

応募方法



おすすめの本を紹介するPOPを制作し、作品裏面に学年、学科、氏名を記入の上、図書館カウンターに直接提出してください。
大きさはA6(10.5cm×14.8cm)からハガキサイズを目安とし、形状や素材は自由です。応募の際に「推し」の1冊に自作のPOPを添えた写真を添付してください。

※手書き部門・一般部門合わせて1人1点のみ応募可

※未発表かつオリジナルの作品に限る

左のQRコードまたはteamsに掲載する応募用Formより応募してください！

募集期間

令和8年7月27日(月)～10月30日(金)

賞品

各部門につき

最優秀賞 1名

図書カード 3,000円分

優秀賞 2名

図書カード 2,000円分

佳作 2名

図書カード 500円分

担当/4年 経営情報学科 長谷川遼、1年 電気システム工学科 谷口侑希子

編集後記

図書館だよりを読んでいただきありがとうございます。もうすぐ夏休みを迎えますね。高専の夏休みは長いので、ぜひ図書館を活用して様々なジャンルの本に挑戦してみてください。夏休みに出会ったお気に入りの一冊があれば、ぜひPOPでその魅力を紹介してください。皆さんの力作を楽しみにしています！

5年 制御情報工学科 中村羽菜

ひととき

校長 川村 淳浩 先生

—学生に紹介したい本は何ですか？

『若い読者に贈る美しい生物学講義』（更科功、ダイヤモンド社）とても分かりやすく生物学の仕組みを解説してくれているので、進化とか、遺伝子は習ってると思うのですが、深いところがありますのすごく読みやすいですし、興味を持って読み進められる、そんな重たくない本です。ぜひ読んでほしいですね。

—教員を目指すようになったきっかけは何ですか？

そうだね、僕が高専生だった時代に、最後のキャリアとして高専の教員になろうとは思っていました。民間企業で長く働いていたのですが、行政で働いたのと、校長になったのが予想はしていませんでした。高専学生だった時に、すごく先生方もとても多様で面白かったし、学生も一生懸命、僕らも一生懸命やってたので。ただ、あの頃は企業から来て教員になった方がほとんどだったんですよね、僕らの時代って。なので、いろいろと人生経験してから教員になりたいと思っていたので、そういう経緯になります。

—先生のご趣味は何ですか？

今はできていないのですが、学生時代からサッカーをやったので、釧路高専の教員だった時はシニアのチームに入っていて、昔の仲間と一緒にできるので、これをしていました。でもこっち来たら一人だし、仕事も忙しくなっちゃったので、趣味を探さなきゃなって思ってますね。



—落ち込んだ時はどうしますか？

落ち込んだ時はね。寝ます。寝ると時間が経つから、テンパっていたのがまあいいかって、落ち着いていく感じですかね。そういうこともあるよね、みたいな。だんだんと、もうだいぶ六十過ぎてるんですけど、いろんなことがあっても、もうしょうがないやで。

—学生に一言

それなりに生きてきて、いろんな勉強とか仕事とかに出会ってきました。それなりに嫌だな、つまんないなと思ったこともいっぱいあったけれど、一応それでも、とりあえず諦めないでやってやり遂げてきたんです。それらはね、その時には本当にこんなことって思っていたけれど、でも何年か、何十年かして、それがふと役立つ場面が実際にいくつも何回もありました。なので人生連続しているのですが、今のことは結局何もないんだなって。大事なことはつまんないなと思ったとしても、最後までとりあえずやり遂げてみれば、自分の何かしらの力になっていくので、どこかしらできっと役立ちます。なので、皆さんには、若い方には特に失敗を恐れなくてチャレンジを続けてほしいな。それがいつか絶対に皆さんの人生の中で役に立ちますから、そう信じて。実話ですので。おじいさんの実話なので、ぜひともそこは信じてやってほしいなと思います。

担当／3年 電気工学科 篠原勇仁、5年 制御情報工学科 古川実慧